

# 調査報告

## 曾於市地域福祉活動計画策定のための基礎調査（1）

高橋 信行\*・鄧 俊\*\*

### はじめに

本報告は、平成20年4月に曾於市社会福祉協議会により実施された「基礎調査」の結果の一部を分析したものである。曾於市社会福祉協議会は平成21年度より、住民とともに、地域福祉の推進に関する計画である「地域福祉活動計画」の策定を行うが、そのための基礎調査となるものである<sup>1</sup>。

### 1. 合併自治体曾於市について

曾於市は、鹿児島県の東部を形成する大隅半島の北部に位置し、宮崎県都城市、鹿児島県志布志市、霧島市、鹿屋市、曾於郡大崎町に接している。現在（平成21年6月）、曾於市の人口は、41,676名（男性19,570名、女性22,106名）となっている。平成17年7月1日に「旧大隅町」「旧財部町」「旧末吉町」の3町が合併をして新たにできた自治体である。旧自治体時代の人口や産業構造を見てみると、平成17年の段階での人口は、旧大隅町11,580名、旧財部町9,398名、旧末吉町17,397名となっており、旧末吉町の人口規模が最も大きい。産業構造を就業者の比率で見ると、第1次産業（主に農業）では、大隅、財部、末吉の順であり、第2次産業では、逆に末吉、財部、大隅の順になっている。全体には、第三次産業人口が最も多く、この比率は3つの地域ともあまり違いはない。他の市町村に比べると、農業の比重の高い自治体と言える。

表1 旧自治体の産業人口割合

	総数	労働力人口 総数	就業者	完全失業者	第一次産業%	第二次産業%	第三次産業その他%
大隅町	11,580	7,109	6,878	231	30.3	23.2	46.5
財部町	9,398	5,394	5,190	204	28.0	25.7	46.4
末吉町	17,397	10,640	10,175	465	26.3	27.0	46.7

平成17年 鹿児島市統計年鑑による（鹿児島県 平成18年刊行）

キーワード：地域福祉活動計画，社会福祉協議会，自由回答，学校区

\* 本学福祉社会学部教授

\*\* 本学福祉社会学研究科博士課程1年

1 高橋信行は、この調査に関して質問づくりから関わり、集計分析については、地区（26の校区）ごとの集計をゼミ学生とともにやってきた。本報告は、そのうち旧自治体レベルでの分析結果を高橋信行と鄧俊（博士課程1年）の連名で報告する。

## 2. 曾於市における地域福祉活動計画策定のプロセス

この基礎調査の目的は、今後、曾於市社会福祉協議会が中心となって作成が予定されている「地域福祉活動計画」の基礎データとするためのものである。曾於市では、行政がつくる地域福祉推進のための計画「地域福祉計画」は策定済みであるが、社会福祉協議会は、地域福祉推進をより身近な日常生活圏域で達成するために、26の学校区を意識した「地域福祉活動計画」を策定したいという意向を持っていた。そこで、ここでの分析に際しては曾於市全体としての調査結果とともに、旧自治体レベルでの調査結果、地区ごとの調査結果なども意識しながら、集計分析を行う必要があった。

## 3. 基礎調査の概要

この調査の対象者は、曾於市に在住する市民のうち2,000名であり、26校区の人口比から、サンプル数を選び、各自治会の世代別人口の割合にそってサンプル数を決めた。調査法は、発送は郵送法、回収は留置法であり、回収には在宅福祉アドバイザーならびに自治会長があたった。また10代の対象者については、異なる手法がとられ、社会福祉協議会指定のボランティア協力校（中学、高校）に依頼を行った。調査日程は、2008年4月はじめに、対象者名簿を作成、4月25日に発送、回収期日を5月10日としたが、最終的には、5月末までのデータをまとめたものである。2,000名の対象者のうち有効回答は1,726票（未成年を含む）であり、回収率は86.3%である。

## 4. 調査項目について

全体として調査項目は21項目がある。それらは「あなたやご家族について」「地域のつながりのご近所での困りごと」「福祉サービスの利用について」「福祉サービスの支援について」「地域活動について」「ボランティア・NPO活動の現状と課題」「社会福祉協議会について」の7領域に分かれており、選択式の質問ばかりではなく、かなり自由回答も含んでいる。このうち、今回「あなたやご家族について」（属性）の分析と「地域のつながりのご近所での困りごと」の調査結果について分析を行った。

なおこの分析では、数量化されたデータの部分は、20歳以上の調査データを用い、自由回答部分に関しては、14歳から19歳までのデータも含めて分析を行っている。集計分析には、SPSSバージョン16日本語版を、また自由回答記述の分析にはSPSS Text Analysis For Surveys 3.0日本語版を使用した。

## 5. 旧自治体別調査結果の特徴

先ほども述べたが、今回の分析では、「あなたやご家族について」（属性）と「地域のつながりのご近所での困りごと」を中心に曾於市全体としての集計結果ならびに、旧自治体レベルでの調査結果を示し、若干の考察を行う。

### A あなたやご家族について

#### (1) 性別と年齢カテゴリー

調査対象となった者の性別は、全体で男性47.6%、女性52.4%である。平成18年の曾於市の男性の割合が47.3%であるので、この男女比は先にあげた曾於市の人口からみて、ほぼ母集団の特性を反映しているようである。旧末吉町は、男性52.5%で、男性の方が多く、他の旧町は女性の方が多い。

年齢を3つのカテゴリーに区切ってみると、「若年層（20-39）」が18.0%、「中年層（40-64）」43.5%、「高齢層（65-）」38.4%となっている。先の18年のデータでは、高齢化率が32.1%であるので若干こちらの方が高いが、このデータが19歳までの人口を含んでいないところから、こうした結果が出ているようである。旧自治体別にみると「旧末吉町」の若年層が20.1%と最も高く、逆に旧大隅町は、高齢層42.8%と最も高かった。

表2 旧自治体の性別と年齢

			性別			年齢			
			男性	女性	合計	若年層 (20-39)	中年層 (40-64)	高齢層 (65-)	合計
旧自治体	旧末吉町	度数	292	264	556	114	259	194	567
		旧自治体の%	52.50%	47.50%	100.00%	20.10%	45.70%	34.20%	100.00%
	旧大隅町	度数	177	228	405	61	174	176	411
		旧自治体の%	43.70%	56.30%	100.00%	14.80%	42.30%	42.80%	100.00%
	旧財部町	度数	191	235	426	78	178	169	425
		旧自治体の%	44.80%	55.20%	100.00%	18.40%	41.90%	39.80%	100.00%
合計		度数	660	727	1,387	253	611	539	1,403
		旧自治体の%	47.60%	52.40%	100.00%	18.00%	43.50%	38.40%	100.00%

## (2) 家族構成

家族構成では、全体で「ひとり」9.4%、「夫婦だけ」37.1%、「親と本人2世代」14.5%、「本人と子2世代」29.3%、「本人と親と子3世代」6.3%、「その他」3.4%となっている。

旧自治体別にみると、「一人暮らし」は旧大隅町が、11.0%と高くなっているが、これは高齢者ばかりではなく、若者も含んだ数字である。高齢者の一人暮らしに限定すると、以下の表のように高齢者の2割が一人暮らしであることがわかる。やはり旧大隅町が23.4%と多く、旧末吉町は16.1%であった。これを性別でみると、女性の一人暮らしが多いことがわかる。高齢女性の場合は35.2%が女性（男性は7.8%）という数字が出ている。

表3 旧自治体の家族構成（高齢者層）

			家 族 構 成						合計
			ひとり	夫婦だけ	親と本人 2世代	本人と子 2世代	本人と親と 子3世代	その他	
旧自治体	旧末吉町	度数	31	105	11	32	3	10	192
		旧自治体の%	16.1%	54.7%	5.7%	16.7%	1.6%	5.2%	100.0%
	旧大隅町	度数	41	101	6	16	9	2	175
		旧自治体の%	23.4%	57.7%	3.4%	9.1%	5.1%	1.1%	100.0%
	旧財部町	度数	36	88	4	32	3	4	167
		旧自治体の%	21.6%	52.7%	2.4%	19.2%	1.8%	2.4%	100.0%
合計		度数	108	294	21	80	15	16	534
		旧自治体の%	20.2%	55.1%	3.9%	15.0%	2.8%	3.0%	100.0%

## (3) 居住年数（表なし）

居住年数では、全体として「31年以上」51.1%と最も多く、次いで「21年～30年」と「11年～20年」が、それぞれ17.3%、「5年～10年」7.7%、「5年未満」6.7%の順になっている。旧自治体別にみると、旧大隅町では「31年以上」が57.3%であるのに対し、旧末吉町は43.7%でやや差がみられる。

#### (4) 職業 (表なし)

職業では、全体として最も多いのが「自営業」30.4%であり(この自営業は、多くは農業であると思われる)、次に「民間企業・団体に勤務」24.4%、「無職」23.6%、「パート・アルバイト」10.1%と答えている。旧自治体ごとにみると、旧大隈町において「自営業」38.3%で全体より高くなっているが、旧末吉町は22.5%でやや低い。逆に「民間企業・団体勤務」では、旧末吉町が28.1%であるのに対し、旧大隈町は18.7%である。

### B 近所のつながりとお近所での困りごとについて

この調査では、地域の特徴を示す意味で「地域の自慢」「改善点」「気になっていること困りごと」「解決できる身近な問題」の4つを自由回答で聞いている。

こうした問いかけは、住民参加型の地域福祉推進活動、特にワークショップ形式での住民懇談会を開く場合に用いることの多いプログラムであり、住民懇談会では出てきた意見をKJ法等の手法を使ってまとめたりする。今回は、こうした住民懇談会を後で想定した場合のデータづくりの意味合いもある。

#### (1) あなたの地域(小学校区)の良いところ(自慢できる)は、どのようなところか

はじめの質問は、地域のよいところ、自慢できるところを聞いたものである。自由回答の分析には、自由回答分析ソフト SPSS Text Analysis For Surveys (以下よりSTAFSと称す)を用い、すべての文章を文節の形で区分し、この中からキーワードを取り出し、多い順にならべている。

##### 1) 挨拶96

興味深いワードが1番になった。それは「挨拶」という言葉である。これらが96名に言及されている。例えば、「挨拶がしっかりできるところ」「子どもたちがよく挨拶をしてくれる」「誰とでも必ず挨拶してくれる」というものである。「挨拶」の習慣があるということとどまらず、これを価値として、「地域の自慢できるところ」にしている点が興味深い。ちなみにこのワードは、旧自治体別にみると、旧末吉町が50.0%、旧大隅町31.3%、旧財部町18.8%であった。このワードは、特に子どもとの関連が深く、このワードをあげた人の43.8%は子どもであった。子どもがよく挨拶をしている姿が浮かぶ。

##### 2) 自然83

次いで多いのは、「自然」というワードである。「自然豊かな地域である」などの回答である。このワードは、旧大隅町に多く43.4%である。旧末吉町は28.9%、旧財部町は27.7%であった。

##### 3) 子ども83

3番目は「子ども」というワードである。これは先の「挨拶」と結びついているものも多い。旧末吉町が比較的多く44.6%である。次いで旧大隅町32.5%、旧財部町22.9%と続く。

##### 4) まとまりがある(団結、協力、助け合い、協調性を含む) 74

「団結」「協力」など地域のまとまりを自慢にあげる人がその次である。例えば「近所となりとの助け合いができていること。若い夫婦が多いので子どもたちの声が聞こえること」「住民の団結力が強く地域の行事活動に協力的である」などである。このワードは、旧末吉町51.4%、旧大隅町25.7%、旧財部町23.0%に言及されている。

##### 5) 行事64

「行事」を自慢する意見も多い。「自治会・小学校・PTAが一体となつていろいろな行事に取り組んでいる」「地域が一体となり小学校行事、校区行事等盛り上がっている」「自治会活動が活発!!敬老会や運動会など老若男女が参加している」などである。旧末吉町37.5%、旧大隅町32.8%、旧財部町29.7%に言及されている。

6) きれい41

6番目は、「きれい」というワードである。「特大イチョウの木があり、秋には最高にきれい」「森が多く空気がきれい」などである。特にこのワードは旧大隅町に多く、48.8%である。ついで旧財部町31.7%、旧末吉町が19.5%で最も少なかった。このワードは「緑」「自然」のワードと関連を持つ。

7) 近い40

「近接性」を意味する「近い」のワードも多く選択されている。「商店街も近く、病院・薬局も充実している点」「静かで緑が多く、末吉市役所等の場所に近く、都城にも近いので生活しやすい」などである。地区別には、旧末吉町が55.0%で最も多い。ついで旧大隅町27.5%、旧財部町17.5%の順である。これに関連するキーワードは「便利」である。

8) 緑38

ついで「緑」である。緑は、旧末吉町と旧大隅町が同数で36.9%である。最も調査対象の少ないのは旧大隅町なので、相対的には旧大隅町が多いということになろう。なお、旧財部町は26.3%であった。これに関連するキーワードは「きれい」「静か」「自然」などである。

9) 祭り36

ついで「祭り」に関するワードがくる。「弥五郎どん祭りがある」「夏祭り」など。これに言及しているのは旧大隅町が最も多く58.3%、ついで旧末吉町30.6%、旧財部町11.1%とかなり差が出た。

10) 静か33

10番目は「静か」というワードである。「自然豊富で静かな環境であること」などである。旧末吉町が51.5%で最も多く言及され、後の旧2町が24.2%で同じである。これは「自然」「緑」「環境」などのワードと関連をもつ。

11) 近所33

同数で「近所」というワードがあがった。これには「近所づきあい」も含まれるが、「困ったことがあるとすぐ助けてくれる近所さんがいること」「近所の人たちが優しい」などの使われ方である。これは旧自治体であり差はなく旧末吉町39.3%、その他30.3%ずつである。このワードは「仲良く」「自然」「まとまりがある」などのワードと関連している。

12) 校区30

校区は30であるが、実は自治会25、公民館18などを入れるとかなり多くなる。「校区が小さいから全てにおいてまとまりがよい」「大きな校区ですが、みんなが和気あいあいと明るく健康で豊かな社会生活と絆があること」などである。旧大隅町が56.7%と大変多く言及され、ついで旧末吉町39.3%、旧財部町は10.0%である。

13) 参加27

「参加」は、例えば「必ず、花見などの行事があったときほとんどの地域の人が参加しているところが良い」などである。旧末吉町と旧大隅町が37.0%、旧財部町が25.9%である。「参加」のワードは、「行事」「子ども」「校区」「地域」などと関連をもつ。

14) 自治会25

このワードは例えば「各自治会活動が盛んなところ」などの使われ方をしているが、旧末吉町に60.0%と大変多く、残りの旧2町が20.0%ずつである。地域の呼び名の問題もあるかもしれない。

15) 仲がよい25

「仲がよい」点を述べた意見も多い。地区別には、60%が末吉町に言及されている。ただし、この項目は64%は未成年層から出た意見である。

## 16) その他

その他以下のようなワードが続くが、特に地区との関係で特徴を見てみると、「環境」は旧末吉町52.2%、「安心」は旧末吉町55.0%。旧大隅町45.0%で、旧財部町はゼロであった。「便利」は旧末吉町55.0%、旧財部町35.0%、そして旧大隅町は15.0%と最も少なかった。さすがに「弥五郎どん」に関しては100%旧大隅町である。「住みやすい」は旧末吉町(60.0%)、「親切」は旧大隅町(53.3%)、「活気がある」は旧末吉町(63.6%)に多く言及されている。

## (2) あなたの地域(小学校区)で改善した方がいいと思うところはどのようなところか

上記の手続きでSTAFSを使い、「改善点」について自由回答を分析したところ、以下のようなキーワードを得た。

### 1) 道路91

改善点のワードで最も多かったのは「道路」に関わる問題である。例えば、「道路が狭く事故が多い」「道路上へのゴミの投げ捨てがある」などである。このワードは、旧大隅町に多く、全体の50.6%に及ぶ。次いで旧末吉町の36.3%、旧財部町の13.2%の順である。「道路」の関連ワードとしては、「狭い」「危険」「外灯」「登下校」などである。

### 2) 外灯62

ついで多いのが「外灯」である。例えば「外灯がなくて暗い場所がけっこうあるので、もう少し増やしてほしい」という意見である。このワードは旧末吉町が48.4%で最も多くみられ、ついで旧大隅町29.1%、旧財部町22.6%となっている。関連ワードは、「暗い」「道路」「夜」などである。

### 3) 子ども57

「子ども」のワードも多い。具体的には「子ども達が安心してとおる通学路が、まだ不十分なので整備してほしいと思います」など、子どもの保護を目的としたものと、「子どもの数がどんどん減っているので、何か対策をとったほうがいいと思う」と少子化につながるものなどがある。旧末吉町52.6%、旧大隅町31.6%、旧財部町15.8%の順である。関連語としては、「学校」「登下校」「道路」「高齢者」などである。また年齢別にみると、このワードは、未成年者からはあまり発せられていない。

### 4) 登下校40

「登下校」に関わるワードも多かった。例えば「小学校の登下校でがけ崩れの所がある」などである。また「通学路」などのワードもここに分類した。例えば「学生の通学路におけるマナーの低下(車が近くにきてもどかない等)」などの意見である。旧自治体別では、旧末吉町55.0%、旧大隅町27.5%、旧財部町17.5%の順である。

### 5) ゴミ39

「ゴミ」にまつわる意見も多い。「ゴミのポイ捨て」「ゴミがたくさんある」などの意見である。なお、この意見は未成年層に圧倒的に多く、実に79.5%が未成年から発せられている。旧自治体別では、旧末吉町51.3%、旧大隅町41.0%、旧財部町7.7%である。関連語としては「道路」「店」などである。

### 6) 若い・若者39

同数のキーワードで「若い・若者」も多い。これには「若い人が(自治会に入会せず)少ないため活気がない」など若い人が地域活動等に加わらないことを問題視したものや「若い人が住めるようにしたほうがいい」「若い人にもっとかえってきてほしいです」など、若い人を地域の担い手として期待する意見である。「子ども」「仕事」「学校」などの用語と関連を持ち、旧自治体別では、旧末吉町56.4%、旧大隅町33.3%、旧財部町10.3%の順で言及されている。

## 7) 高齢者33

「高齢者」というワードも多い。このワードは、子どもや若者のワードと関連づけて述べられることが多い。例えば「高齢者が増えており、色々な活動ができなくなっている。若者が少なく、つながりが薄くなってきている」「高齢者が増え、自治体の行事等若い人に負担が大きくなっている」などの意見である。また「老人の数は多いのに老人クラブや老人学級への参加は少ない」「もっと高齢者の方との交流を小さいときから持たせるべき。介護職や医療にたいして、もっと関心を持たせたい」などの意見もある。旧自治体別では、旧末吉町42.4%、旧大隅町36.4%、旧財部町21.2%となっている。

## 8) 学校32

学校がキーワードの改善点とはどのようなものであろうか。「学校の前の、信号の押しボタンの位置が道路側をむいていて押しボタンを押すときに車が通るので危ないと思います。押しボタンのむきをかえてもらえたらと思います」「中学校に行くまでの外灯が少ない」など、以下の「危険」「暗い」等のカテゴリと関連する回答が多い。関連キーワードも「子ども」「登下校」「車」「危険」等である。旧自治体別にみると、言及しているのは旧末吉町53.1%、旧大隅町28.1%、旧財部町18.8%であった。

## 9) 危険28

次のワードは「危険」である。先にもあったが、他にも「自宅から小学校まで一部歩道がなく（ビデオインホワイト～大淀川）通学の際に、子どもが交通事故の危険があるのではという心配」「道路の側溝蓋がなく危険なところが多い」「道路が狭く危険がいっぱいなところ。外灯が人家の近くにあるといいと思う。物騒な世の中なので」などである。このワードの場合は、旧大隅町に多く39.3%、ついで旧末吉町35.7%、旧財部町25.0%となる。

## 10) 暗い26

「暗い」のワードは「外灯」「夜」「道路」との関連が強い。「外灯がなくて暗い場所がけっこうあるので、もう少し増やしてほしい」などである。旧自治体別では、旧末吉町46.2%、旧財部町30.8%、旧大隅町23.1%となる。

## 11) 狭い24

「狭い」のワードは、「道路」「危険」「車」のワードと関連が強い。「歩道が狭くて危ない」「道路が狭い、歩道が狭い。道路が狭い（2号線）割りにダンプ、大型トラックが多く通る。危険である」など、ほとんどが上の関連ワードに結びついている。旧自治体別では、旧末吉町と旧大隅町が37.5%、旧財部町が25.0%となっている。

## 12) 自治会23

「自治会」のワードは、「若い」「子ども」「集落」「地域」などが関連キーワードである。「自治会での助け合いがもう少しほしい。非協力的なところも見受けられる」「自治会未加入家庭が多い。全家庭加入とは出来ないものか」などである。旧自治体別にみると、旧末吉町が78.3%と突出している。旧大隅町17.4%、旧財部町4.4%である。旧末吉町の場合、「若い」「子ども」が関連キーワードのすべてを占めており、旧末吉町の場合は、若い人が自治会活動に参加しないことを問題視しているように見える。

## 13) その他

その他「交通」「車」「店」「地域」「校区」「夜」「公園」などと続くが、興味深いのは「店」で、このワードは、81.0%は旧大隅町の住民が言及している。「店がない」「店を作ってほしい」などの意見である。

## (3) 身近なご近所のことで、何か気になっていることやお困りごとは何かあるか

上記と同様、STAFSを使い、自由回答分析を行った。

1) 高齢者57

「高齢者」のキーワードが第一にきた。「高齢者(90歳以上)の方が多いので、非常に心配している」「高齢化(特に70歳以上)の独居者に対し安否確認の意味で声掛け訪問してほしい」「最近では自治会区に高齢者が多く、祝い事や葬祭ごとを以前のようにできなくなっているところがある」「高齢化で一人暮らしが多くなり、事件、事故等が発生した場合が大変である」など。関連ワードとしては「一人暮らし」というワードとの結びつきが強い。他は、「集落」「自治会」などである。旧自治体では、すべてにこれらのワードが平均的に含まれているが、最も多いのは旧末吉町45.6%であり、ついで旧大隅町35.1%、旧財部町19.3%の順である。

2) ゴミ43

次に多いワードは「ゴミ」に関するものである。これには「ごみがたくさん落ちている」「ごみ焼きのこと」「ゴミ収集所が遠い」「ゴミの分別がわからない人たちのゴミ出し(無記名や混合など)」などの意見が含まれている。関連ワードとしては、「道路」「自治会」などである。旧自治体では、旧末吉町が62.8%で最も多い。ついで旧財部町21.0%、旧大隅町16.3%である。

3) 自治会31

次に多いワードは、「自治会」である。「自治会未加入者が多い」など未加入者に対する問題が多く、これに派生して「自治会未加入の子どもが子ども会等の活動に参加しない」や「高齢者自治会です。若い方も2,3人で共働きですけど、自治会長も頑張ってくれています。時間を作るのも大変だと聞いています。何かいい方法はないでしょうか」など、自治会長の負担について述べた意見も複数あった。関連ワードとしては、「高齢者」「若い」「ゴミ」「一人暮らし」「子ども」などである。「若い」が入っているのは、若い人が、自治会に入らないという意見、若い人に入ってほしいという意見が多かったためである。旧自治体別には、旧末吉町58.1%、旧財部町22.6%、旧大隅町19.4%の順に言及されている。

4) 道路29

次に多いワードは「道路」である。「道路が舗装されたが、そのため事故が起きやすくなり、何回もヒヤットとする。ミラーや表示が必要。交通量も増え、スピードを出す」「隣接する農地での作業後の道路上の草などの散乱」「道が狭いのに大型車が通るので困っている」などである。関連ワードとしては、「車」「ゴミ」「狭い」「夜」「外灯」などである。旧自治体別では、旧末吉町が62.1%で最も高い。ついで旧大隅町31.0%、旧財部町6.9%である。

5) 犬・猫28

ここにきて「身近なご近所の困りごと」として特徴的なものが出てきた。これまでのものは地域の改善点とほぼ同様であるが、「ゴミ置き場を猫やカラスが荒らして汚い」「犬の放し飼い」「犬・猫の放し飼い、市役所への苦情を言っても有線で流すだけ、現場へ係りの人が行って現状を見て欲しい。このアンケートの1%でも現実化出来ればよろこばしいです」などの意見である。関連ワードとしては「放し飼い」「フン」などである。これは旧自治体ともに平均的に意見が出ている。旧末吉町46.4%、旧大隅町32.1%、旧財部町21.4%である。

6) 子ども28

「子ども」のワードに含まれるのは、「自治会での事です、今話題の少子高齢化でしょう。子どもが少な過ぎて、子ども会が成立しない」「外灯がない、冬場だけでも子どもたちの安全のためにあれば」などの意見である。関連ワードとして「高齢者」「自治会」「車」など。このワードは旧大隅町に最も多く39.3%、ついで旧末吉町35.7%、旧財部町25.0%となっている。

7) 車27

「車」のワードは、「道路」「うるさい」などのワードと関連する。「自転車。ブレーキをかける音がうる



さい」など。また「車のない一人暮らしの老人の買い物で困っていると聞く」など高齢者問題との関連を述べる意見もあった。旧末吉町48.1%，旧大隅町33.3%，旧財部町18.5%の順である。

#### 8) 一人暮らし24

「一人暮らし」というワードでは、例えば「独居老人（80歳以上）世帯が年々増えている。夜間の緊急時に電話をかける余裕もない時、『ベル』一本で通報できるシステムはないでしょうか」や「独居老人（一人暮らし）が増えており、この点が心配である。各自治会において、声かけ運動を実施しているようですが、なかなか思うように行われていない。各家庭においてもっと意識改革を感じるので自分たちをアピールしていきたい」など一人暮らし高齢者の声かけ、見守り等の支援について述べられた意見が多い。関連ワードは、「高齢者」「自治会」「集落」「夜」などである。旧自治体別にみると、旧大隅町が58.3%で最も多く、ついで旧末吉町37.5%，旧財部町は4.2%とわずかである。

#### 9) 外灯23

「外灯」というワードは、「暗い」「夜」などが関連ワードであり、「通学路に外灯の暗い所があり、冬や雨の日は危ない」「夜に道を歩くとき外灯が少なくて暗い」などの意見である。この意見は、旧大隅町に多い意見で56.5%，旧末吉町30.4%，旧財部町13.0%となる。

#### 10) 夜20

「夜」というワードは、先の「外灯」が関連するワードである。そのほか「暗い」「犬・猫」などが関連ワードである。「犬・猫」に関しては、次のような意見がある。「野良猫が多く、夜も鳴き声、汚物が家の敷地にある」「夜に犬の放し飼いをされていて家のまわりにふんをして大変困っています」などの意見である。旧自治体では、旧大隅町が45.0%で最も多く言及され、ついで旧末吉町30.0%，旧財部町25.0%となる。

#### 11) その他

「集落」と「若い」は16ずつに言及されている。「集落」では「高齢者が多く若年層の定着が少なく、今後の集落の在り方が心配」「集落未加入者があり、挨拶や対話もない近所付き合いをして明るい地域にしたいものです」といった意見である（旧大隅町が62.5%で最も多い）。「若い」は「高齢者が増え、若者が少ない」「若者が自治会にはいらぬ」などの意見である（旧末吉町が56.3%で最も多い）。

その他、ご近所の困りごとというところに焦点をあてて結果をみると、「におい」や「臭さ」にまつわる問題が12ある。これの関連ワードは「家畜」であり、これも7つのワードが示されている。これらは例えば「家畜の臭いがひどく窓も開けられない日がある」などである。また「ゴミだしに各家庭の意識が違い、全く出す（リサイクル）事のない家庭が見受けられる。時々異臭を感じる事があり、気分が悪くなることもある」という意見である。また「放し飼い」のワードも9つあり、「犬・猫」「フン」などのワードと関連する。「遊歩道に犬のフンがあり、飼い主は責任を持って処分してほしい」。ちなみに「フン」は10ある。旧自治体別では、「臭い」は旧末吉町50.0%，旧財部町41.7%と多い。「家畜」では旧財部町が57.1%で最も多い。

「空き屋」というワードでも9つに言及されている。「少子・高齢化が進んでおり、このままでは集落がどうなってしまうのだろうかという不安や戸惑いがある。空き家や休耕田が増えており、手入れの届かないこともあって景観が悪くなっている」などである。なお、「空き屋」に言及した意見は55.6%が旧財部町であった。

### (4) もう少し、地域のみんで協力すれば、解決するような身近な問題が何かあるか

上記と重なるので、ここでは概略を述べた後に特徴的なところを示す。

1) ゴミ問題64

身近な解決すべき問題としては、ゴミ問題をあげる人が最も多かった。地区としては旧大隅町が最も多い。

2) 高齢者19

高齢者に関しては、児童と高齢者との交流、高齢者向けの仕事等をあげるものが多い。

3) 自治会14

「自治会未加入者への自治会活動への参加協力」「自治会に公民館があれば月に1,2回でも集まり、茶飲み会や話し合いができたと思います」など。

4) 清掃14

「老人会で清掃作業をして環境整備の一環として花を植える計画をしていますが、行政の力添えがどうしてもほしいものです」など。

5) 分別10

ゴミに関連するがゴミの分別を述べたもの。

6) その他

その他として、先にもあがっていたが、自治会の会長の仕事の負担が重すぎるのではないかという意見が複数みられる。また自治会加入者と未加入者の連携、ボランティアとのネットワークの活用を行い、高齢者の見守りをするという意見、近所との声かけなど。いわゆる連携、連絡にかかわるネットワークについての意見がみられる。集落のみんなが、お年寄りも子どもも集える場所が必要という意見も多い。さまざまな情報を利用、活用する工夫も必要との声もあった。

## 5. 若干の考察

### (1) 旧自治体としての特徴

「地域のよいところ」としては、「挨拶」「自然」「子ども」「まとまり(協力等)」「行事」などが多く言及されたワードである。

挨拶が一番にあがっているが、これは子どもの回答が多かったことが一因にはある。「挨拶」は社会関係の始まりともいえ、孤独死対策に取り組む実践例<sup>2</sup>でも、まず「挨拶」から始められていることを考えるとき、「挨拶」はキーワードのなりえる重要性を持っているように思う。

旧自治体ごとに地域の特徴をみていくと、旧末吉町は調査対象者数も多いが、「挨拶」「子ども」「地域のまとまり」「近い」「自治会」などがワードとしてよく選ばれている。旧末吉地区では、市街地区にあたる所を多く持ち、小学校の数も一番多い。この点から「挨拶」「子ども」が出てきているようである。また「近い」という点からは買い物、交通等の利便性が示唆される。これに対して旧大隅町では、「自然」「きれい」「緑」など自然環境の良さを感じさせるワードが多い。また「祭り」「校区」「参加」なども多く、伝統的な行事に地域住民が参加している姿が思い浮かぶ。当然ながら「弥五郎どん」(伝説の巨人、祭りにもなっている)のワードはすべて、旧大隅町である。旧大隅町の場合、農業を基盤にしている土地柄か、地域共同体モデル的な部分を残しているようである。財部町に関しては、ほとんどのワードに関して言及したものが少なく、特に特徴的なものは見いだせなかった。

改善点としてのワードでは、「道路」「外灯」「子ども」「登下校」「ゴミ」「若い・若者」などが目立つ。旧末吉町では「外灯」「暗い」「子ども」「登下校」「ゴミ」「若い・若者」「学校」「高齢者」「自治会」など

のワードに多く言及されている。中学生の意見として、特に外灯、暗い、登下校のような意見が出されており、通学時の外灯等の問題が具体的にあげられている。また若者が少なくなり、高齢者が多くなる現状、自治会未加入者問題としての指摘も多い。市街地区で若い人がいる地区では逆に自治会未加入者の問題が目立ってくるのだろう。旧大隅町では、「道路」「危険」「狭い」などのワードに多く言及しており、「道路が狭くて危険」といった意見も多い。道路整備等が十分行われていないのかもしれない。ここでも財部町はさしたる特徴はないが、逆にゴミ問題に言及しているのが全体の7.7%と少ないということが特徴かもしれない。

「身近なご近所での気になっていること、困りごと」という点では、「高齢者」のワードが最も多かった。「改善点」でも「高齢者」は9番目に多いワードであったが、ここでは第一にあげられている。住民の高齢化による健康や介護の問題、高齢者の一人暮らしへの不安、自治会が高齢者ばかりで、行事ができなくなるのではという懸念。身近な問題としてこうした点を感じている。ついで多いのが、ゴミ問題であった。これらにはゴミの分別、収集場所、ごみ焼き等のことが含まれる。自治会未加入や道路の問題は先にもあったが、ここで新しく出てきたワードとして「犬・猫」というものがある。犬の放し飼いやゴミ置き場を猫やカラスが荒らすことなどがあげられている。旧自治体別にみると、ほとんどの項目で多いのが、旧末吉町である。さまざまな生活問題について不安や苦情が寄せられている。ただ、「一人暮らし」「外灯」「集落」などは、旧大隅町に多い意見である。やはり一人暮らし高齢者が最も多かった旧大隅町を反映しているようである。また旧財部町に関しては、意見としてはあまり多くはないが、「家畜」について言及しているのは、旧財部町であった。

「解決できる身近な問題」としては、多くが上記のワードと重なる。「ゴミの分別等ゴミ問題への対応」と「高齢者への支援」「自治会の活発化」「清掃活動」などである。

## (2) 地域福祉活動計画をつくる上での留意点

多くの住民が、身近に考えている問題として「ゴミ問題」「高齢者支援」「自治会等の活発化」をあげている。地区懇談会等においてもこうしたテーマを基本にしなが、議論をすすめていくのが共通関心を喚起しやすいように思う。

また解決できる身近な問題の「その他」の意見にあったように、自治会加入者と未加入者の連携、ボランティアとのネットワークの活用を行い、高齢者の見守り、近所との声かけなど、いわゆる連携、連絡にかかわるネットワークについても考慮すべきであろう。集落のみんなが、お年寄りも子どもも集える場所、さまざまな情報を利用、活用するような工夫も大事である。

## (3) 身近な地域が抱える課題

自由回答記述からは、身近な地域が抱えている問題として、地域全体が高齢化することによるさまざまな問題、ゴミ処理等に関する問題、そして地域の共通理解や共同行動の場である自治会や集落の問題、これらは、曾於市に限らず、鹿児島県内の多くの自治体の近隣地域が抱えている課題でもあるように思われる。こうした諸課題に対して、地域福祉の推進がどのような答えを用意できるのかを、曾於市地域福祉活動計画づくりを通して、今後検証していきたい。